

平成 29 年度 主な取組の実施概要

北海道ヒグマ管理計画（平成 29 年 3 月策定）に基づき、次のとおり事業を実施した。

項目	取組	概要	備考
防除対策 の推進	人 身 被 害 の 防 止		
	リーフレットの配布	一般の人を対象とした、ヒグマの事故に遭わないための基本的ルールを掲載したリーフレットを広く配布した。	
	出没情報の提供	出没情報を公表している市町村 WEB ページへのリンク集を道 HP に設置し、出没情報を提供した。	
	ヒグマ注意特別期間の設定	春季（4 月～5 月）秋季（9 月～10 月）の年 2 回、注意喚起強化期間を設定した。 ・リーフレットの集中配布 ・各種広報媒体での注意喚起 ・巡視活動の強化	
	冬期間の出没情報収集・情報共有	冬期間の出没を収集し、関係機関で情報共有を図る。 ※現在取組中	
	出没時及び人身事故発生時の対応方針の策定	計画の目的をするための方策を適切に進めるための必要事項を定めた。	
	誘引物の適正管理の普及啓発	生ごみや作物などのヒグマの誘引物の適正管理の普及啓発した。	
	堅果類結実状況調査結果による注意喚起	堅果類等の結実状況をモニタリングし、ヒグマの人里への出没が極端に増加するおそれについて評価し、一般道民や関係機関に情報提供した。	
	人身被害情報収集等（二次被害対策、事後調査及び検証・公表）	人身被害が発生した際、関係者への聞き取り及び現地調査を行い、被害の状況や発生原因、加害個体などの分析を行った。	
	農 業 被 害 の 防 止		
電気柵の導入促進及び農地周辺の刈り払い等についての指導	人身被害の現地調査及び講習会を通じて、効果的な手法として、積極的な設置・管理を働きかけた。		
狩 猟 期 間 等 の 見 直 し			
春季の狩猟期間導入の検討	許可捕獲同様に、狩猟でも捕獲頭数の制限が必要と考え、冬眠中の穴グマの捕獲を禁止する措置について検討した。		
出没個体の有害性に 応じた対応	4 段階の段階判断等に基づく方策の実施	出没個体の有害性を判断するための 4 段階の基準及び段階に応じた対応方針に基づき、それに応じた対策を講じた。	
問題個体数の 動向把握	鳥獣被害調査第 3 号様式	ヒグマの出没情報及び被害発生状況の情報を収集するとともに、問題個体数を推定中。	
調査研究 及びモニタリング	捕獲個体試料の分析	捕獲及び捕獲個体の情報を収集し、捕獲の実態を把握するとともに、そのデータを捕獲がヒグマの地域個体群に及ぼす影響やヒグマの行動様式の変化などの解析に供した。	
	捕獲個体の情報収集		
	捕獲個体分析調査（繁殖状況、栄養状況の把握）	捕獲個体の試料を分析し、個体群動態パラメータの推測や食性の解析、捕獲された状況等のモニタリングを行った。	
	広域痕跡調査	ロードセンサスや森林作業中のヒグマ痕跡の発見状況から、生息密度指標をモニタリングした。	

項目	取組	概要	備考
	問題個体の動向調査 (被害情報収集・問題個体の特定)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出沒や被害の発生時に、その内容や対処結果の記録、関係者への聞き取り及び現地調査を実施した。 ・ 人身被害が発生した際、関係者への聞き取り及び現地調査を行い、被害の状況や発生原因、加害個体などの分析を行った。 	
	堅果類等結実状況調査	堅果類等の結実状況をモニタリングし、ヒグマの人里への出沒が極端に増加するおそれについて評価した。	
総捕獲数 管 理	3段階の管理措置による捕獲数の管理	計画初年度であったことから、年度当初「通常措置」で対応し、捕獲数等の状況から回復・緊急保護措置は不要と考え、継続して「通常措置」で対応した。	
そ の 他	地域協議会の開催	振興局単位で設置したヒグマ対策連絡協議会でヒグマ対策の推進のための情報の共有、連携強化を図った。	
	地域対策協議会の設置に向けた検討	<ul style="list-style-type: none"> ・ 檜山管内振興局管内でのモデル協議会の設置を検討した。 ・ 石狩・胆振振興局管内でのモデル協議会の設置に向けた意見交換会を開催した。 	
	北海道ヒグマ保護管理検討会の開催	ヒグマの生息状況や道の施策について、専門的かつ科学的な評価及び検討を行う。	
	ヒグマ研修会	北海道の環境部局新任基礎研修において、ヒグマ保護管理に係るカリキュラムを実施し、保護管理人材の育成を図った。	
	ヒグマ対策技術者育成のための捕獲	捕獲技術熟練者と初心者が一緒に捕獲活動を行うことで、ヒグマ対策に必要な人材を育成し、地域の危機管理体制の充実を図った。	